

第3号様式

平成22年度 京都府立大学地域貢献型特別研究 (ACTR) 成果

分類 番号	A	取組 名称	植物園の有する公益的機能の多面的評価
研究代表者：		公共政策学部 (研究科)	准教授：佐野 亘
研究担当者： 京都府立大学 (下村孝、池田武文、田中和博、高原光、福井亘) 外部分担者・協力者 (京都府立植物園園長 金子明雄 同次長 近藤雅史)			
主な連携機関 (所在市町村、機関 (部署) 名) 京都府立植物園			
【研究活動の要約】			
<p>この研究の目的は、京都府立植物園がどのような社会的意義を有しているのかを明らかにし、さらにその意義を市民のみなさんにも、わかりやすく伝えることである。そのために、植物園が有している学術的な価値はもちろんのこと、北山地区で果たしている景観的な役割、また植物園が有する独自の生態系や貴重種の実態と、その意義、さらには、植物園への入場者にとっての癒しの機能などを評価している。</p>			
【研究活動の成果】			
<p>第一に、京都府立植物園と京都府立大学を含む、北山地区全体の植生があきらかになったことが挙げられる。京都北山地域は、その歴史的経緯によって、ニレなどを含む独特の自然景観と生態系を有している。第二に、京都府立植物園には、多様な植物が、相当の期間、生育されており、その結果、どのような状況のもとで、植物にどのような影響が及ぶのか研究することが可能となっている。たとえば、本来であれば、より高緯度の地域に存在する植物が京都府立植物園に存在するため (本来より高い気温のもとで育っているため)、その生育状況を観察することにより、地球温暖化の影響を予測する、といったことがおこなわれている。第三に、京都府立植物園と京都府立大学、さらには鴨川を含めて、ひろい範囲に緑が存在することにより、植物のみならず、昆虫や鳥類などにとっても、この地域がゆたかな生態系を有していることがあきらかになりつつある。他の公園などと比較しても、京都府立植物園は、より多様な鳥類が京都府立植物園に来ていることがわかっている。そのほかにも、植物園への来園者への心理的影響、また、北山地域全体の植生分布の把握などがすすめられている。</p>			
【研究成果の還元】			
<p>平成²²₃₃年1月23日 13時半～16時半 京都府立植物園 植物園会館2階研修室にて 本研究の中間報告会として、「京都府立植物園の多様な役割を探る——京都府立大学と京都府立植物園の共同研究の成果から」というタイトルで、シンポジウムを開催した (京都府立大学大学院生命環境科学研究科との共同開催)。およそ140人の一般市民が参加した。</p>			
【お問い合わせ先】		生命環境科学研究科	准教授：福井 亘
Tel: 075-703-5436		E-mail: wfukui@kpu.ac.jp	

京都府立植物園

- ・ 学術的価値
- ・ 癒しの機能
- ・ 生態系の多様性（植物、鳥類など）
- ・ 都市の緑としての役割（北山地域）
- ・ その他

⇒ これらを把握するための手法の開発、データの収集・蓄積

+ こうした価値や意義を市民にわかりやすく伝えるための活動